

原子力安全文化は、「原子力施設の従業員やその組織における職場・個人・地域の安全に対する信念・概念・価値観を集約したもの」と定義されるのが一般的です。組織における健全な原子力安全文化が原子力施設の効果的・持続可能な運用をもたらすとの考えから、OECD 原子力機関（NEA）と世界原子力発電事業者協会（WANO）は共同で「国固有安全文化フォーラム（CSSCF）」を開発し開催してまいりました。



2018年1月にスウェーデンで開催された国固有安全文化フォーラムの様子

CSSCFは、各国の国民性が原子力の安全文化、ひいては原子力施設の安全な運用にどのような影響を及ぼすかについて対話し、振り返りを行う場を提供することを目的としています。

NEAとWANOは、これまでにスウェーデン（2018年）、フィンランド（2019年）及びカナダ（2022年9月）において、合計3回のフォーラムを実施しました。これらフォーラムにおいては、各国の原子力関係機関の専門家やシニアリーダーを集め、原子力安全文化がその国固有の文化的背景によって如何なる影響を受け得るかについて理解を深め、意見を交換する場を提供してきました。各国でのCSSCFで得られた主要な知見は、当該国の原子力安全文化の強化に貢献して参りました。

日本でのCSSCFは2023年12月に開催する予定です。これは、原子力規制委員会（NRA）および電気事業連合会（FEPC）の協力を得てNEAが計画しWANO東京センターと共に開催するものです。

このプロジェクト全体は、一連の目的を持ったステップから構成されており、まずはNEA専門家による原子力関係者に対するインタビューから開始されます（2023年5月実施）。本データ収集においては、経営陣から現場作業員に至るまで組織内のあらゆる階層を対象に実施し、それを「スナップショット・スタディ」として取りまとめます。この調査結果をもとに、2023年12月に開催予定のフォーラム（2～3日

間）で活用するためのナリオを作成します。このシナリオは、原子力発電所の運営で実際に起こった事象に基づくものであり、フォーラムにおける参加者の間で議論を活性化するために活用されるのです。当日は、海外からの多数のオブザーバーも参加する予定です。

フォーラムにおける議論の結果得られる知見は、事前に実施したインタビュー分析結果とあわせて網羅的な最終報告書としてまとめられます。この報告書は、確認された国民性、そして国民性が原子力安全文化に及ぼす影響について記述し、日本の原子力安全文化を強化するための積極的な取組を明らかにします。本報告書は日本語版と英語版の両方で発行される予定です。

CSSCFは、原子力安全文化が日本の文化的背景から如何なる影響を受けるかについて検証するための効果的な手法となります。フォーラムによって、国内の原子力事業者、原子力産業界、規制当局、その他国内外のステークホルダーの参加者間で開かれた対話が促進されます。その目的は、注目に値する諸課題、既存のベストプラクティス、過去の教訓から学んだこと等についてハイライトを当てることを目的とするものです。



2022年9月にカナダで開催された国固有安全文化フォーラムの様子

本フォーラムにおいて、参加者が協力的で自由な意見交換を行うことを通じて、日本の原子力安全文化にプラスの効果をもたらすことを期待します。

お問合せ先:

メール: nea@oecd-nea.org

公式サイト（英語）: www.oecd-nea.org/csscf